13
3415
3
13
3415
4

志満具理麻美

三編上

13
3415
3

3415

濃紫
浜
閑
朝
日奈
第二編
上三卷

元禄年間の俳優中村舞鶴元祖傳九良ハ朝日奈ふ扮する事ぶ名誉ゆく其頃都鄙ふ評判高く晋子其角も「あさひなの歩やふらり〜わっさりふ」と讃美〜と送り〜こそ扨彼ぶ定紋舞鶴ゑり〜ふ據て小林ぶ衣裳ふ鶴の丸を摸様ふせ〜と猶後世ゆも其業の高きを追慕て此役ふ打扮者ハ鶴の丸の装束を必着ゆ表ふ今でハあべて小林ぶ家紋うと思ふ許江湖ふ見馴ゆ既ふ本傳廻嶋記ゆも美秀ぶ妻室の名を友鶴と号ゆも舞鶴ぶ紋ゑ因るなるらん斯虚を実ふ摸き迄称美ゆ藝の功英勇の名の四海ふ鳴朝日奈の名人なり〜傳九良さ歌舞妓中の豪傑とそららん抔と序を綴ス日も朝日奈の樂屋ハ入〜ふ等くそ案卓の傍ふ汗と拭ふ水無月の中旬なり

嘉永三年庚戌歳晩夏成稿

同　四年辛亥歳孟陬發兌

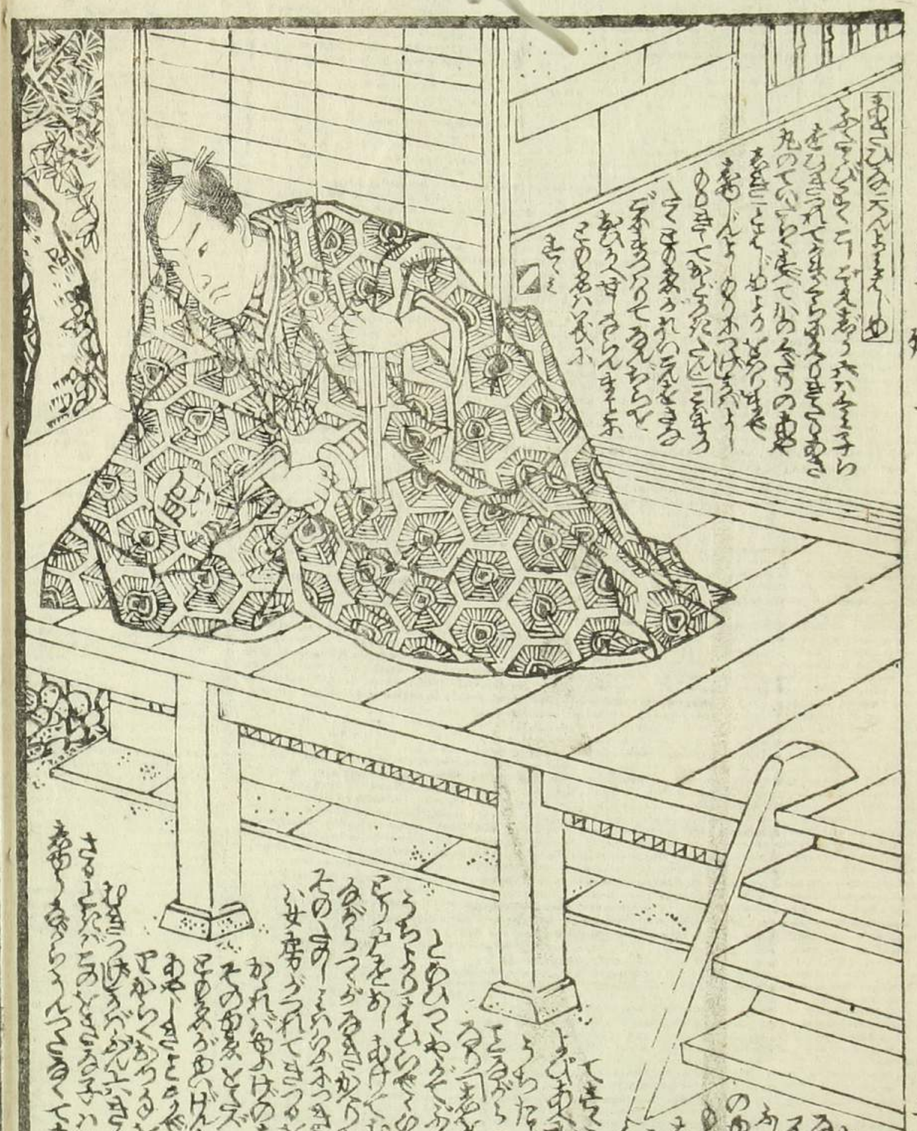
柳下亭種員誌

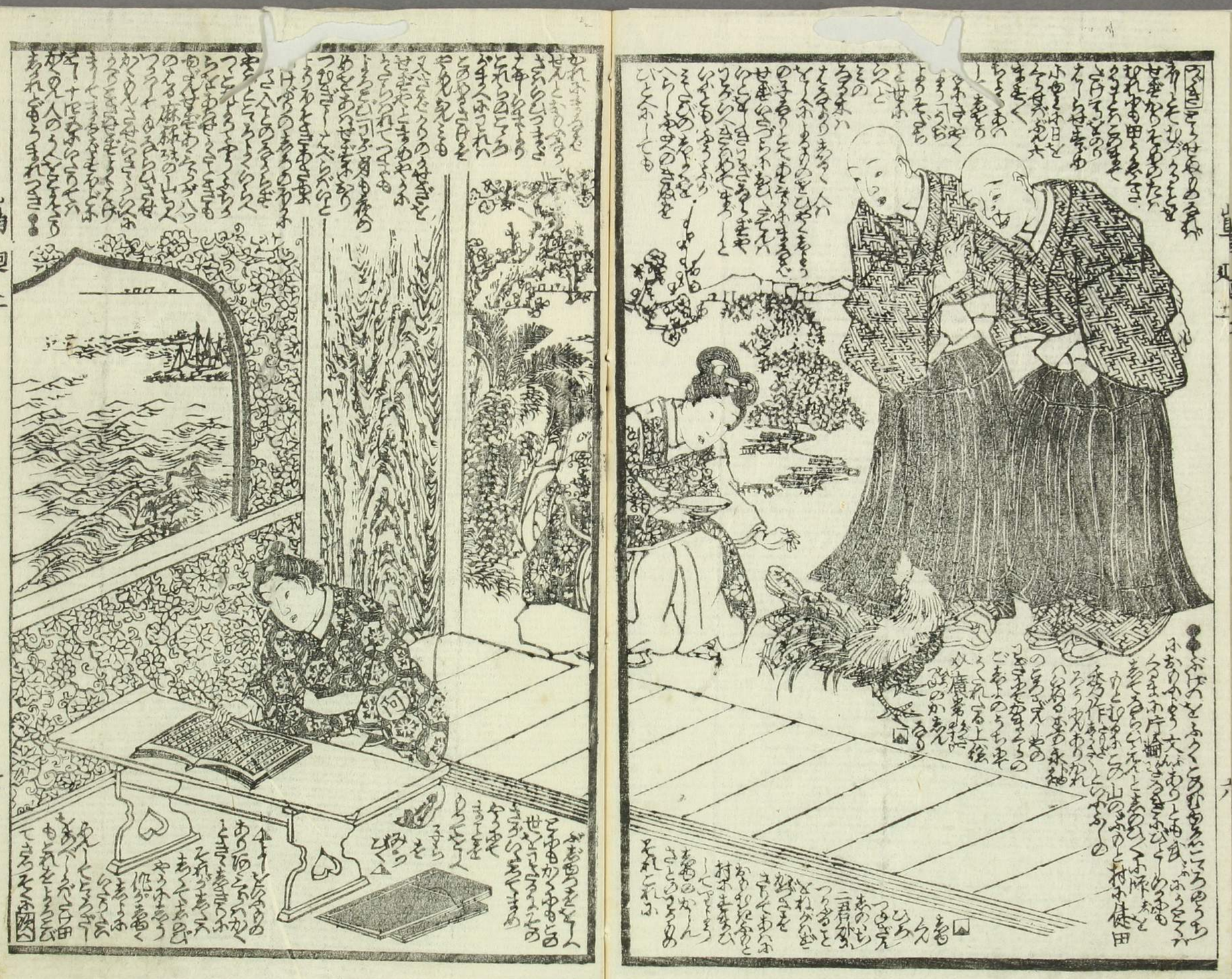
頼朝卿の舎弟
範頼朝臣
世人蒲殿と
称す
蒲殿の忠臣
江瀧口藏人廣通

蒲殿の家臣
當麻太郎
武弘
進献高野禅寺
蒲殿の重宝
仰羅刹の短刀
猛父左典厩
義朝公の
遺物也

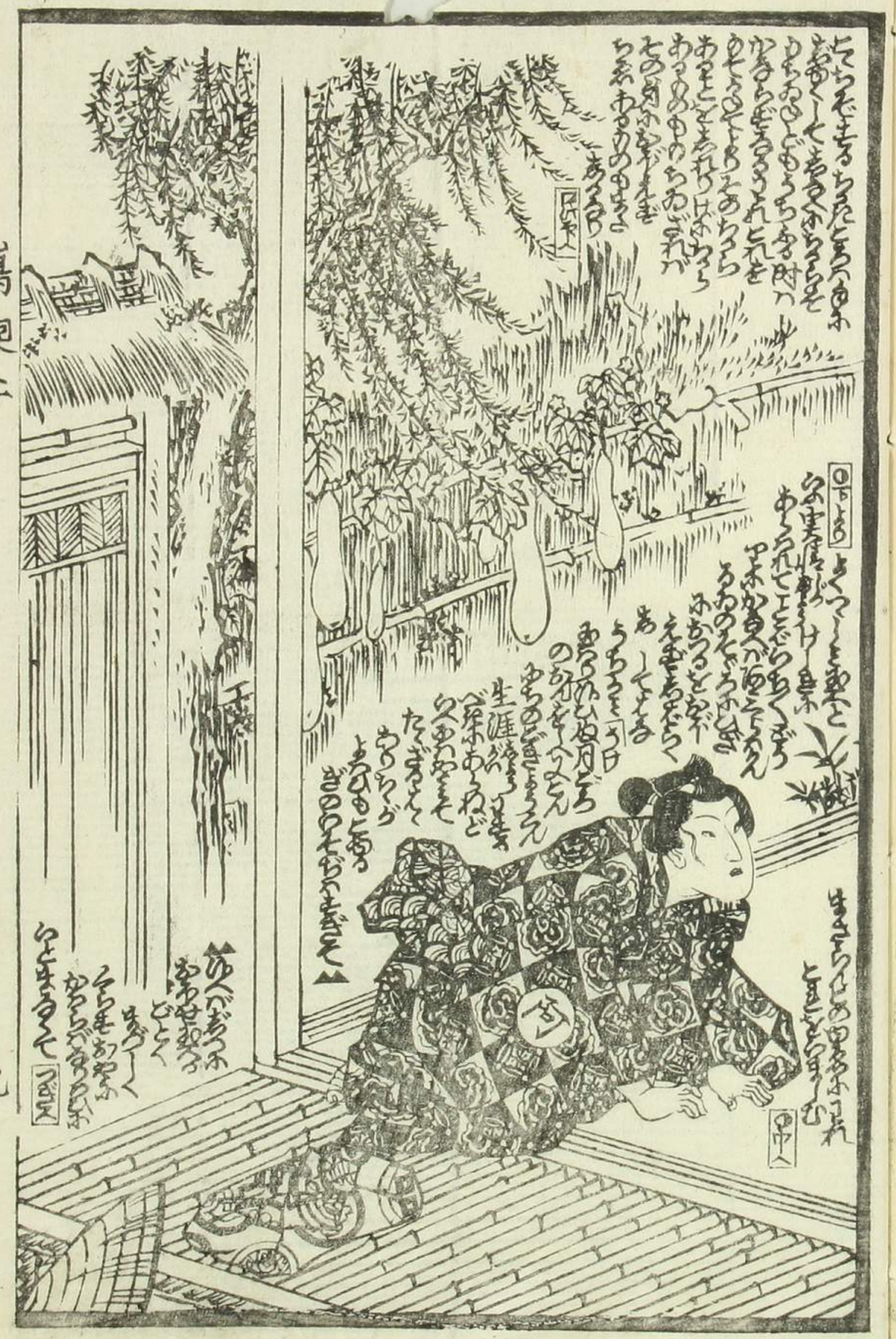
北條時政の良等
湯嶋金之進基勝
江ノ廣光ゞ妻阿佐良井

蒲殿の公達白鳳丸
刀野係杖照時
範頼朝臣の忠臣江ノ三廣光





上総ゝ
廣常ゞ
家の浪士
健田秀作



麻禄山寺遠望

種員作國輝画

清書　金川

本家　實母散　さんぜんさんご　一切のやめ　中橋南傳馬町二丁目東側　千葉堂孝浦製

私方実母さんに変中なり　南てんま町二丁目西ゲ　年来賣弘業の紙店　毎日新聞

御免　痲積湯　せんちゅうつうふう

御用藥所　信州上田東山堂製　せんきのめ茶

おろし　中橋南傳馬町二丁目　茶きの茶　丸次所　蔦屋吉藏

無るんえりおろい　七川ちゃ　一袋　四十八銅

むるひあがわるい　きくの香　一包　廿四文

御茶おろし　白美蓉　一包　三十六文

同　唐げまり　曙乃冨士　一包　円彭

13
3415
4

3413

志満地

素英写

物比形

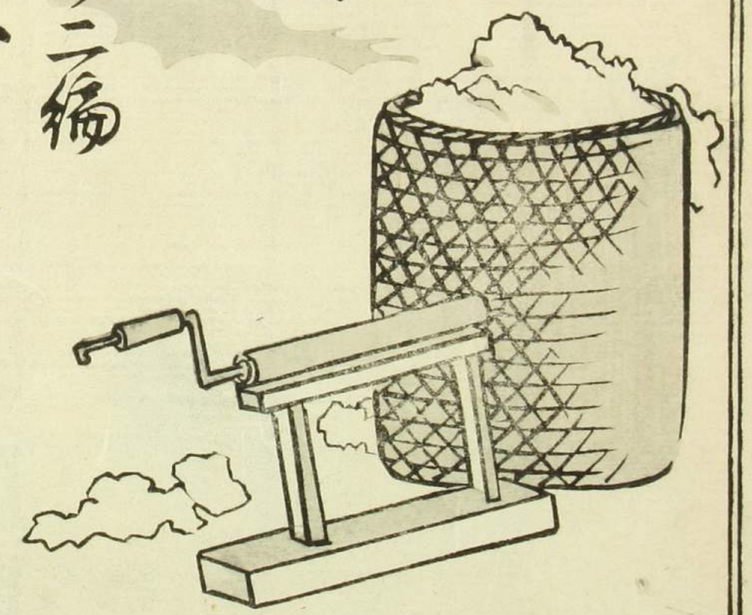
種貞作

玉樽画

第二編

下の巻

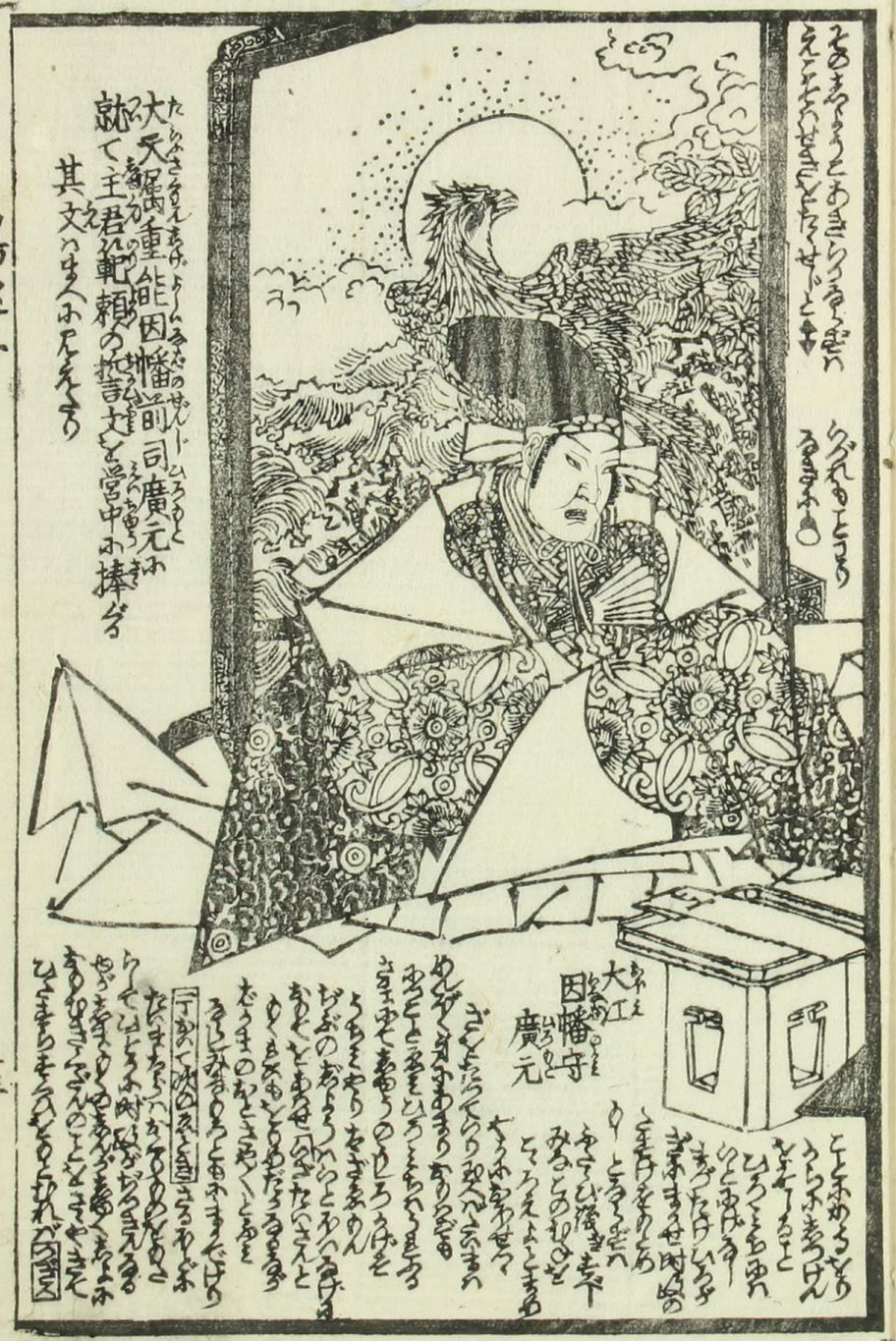
紅英堂梓



紀
紀頼朝臣
鎌倉御所の
喋叫を制止

此頃ハ
猪熊事件の
罪を糾すと同
年の五月下旬ホ
申し年迄十の
巻九丁目の文と
合せて見るべし

大夫属重能



大江
因幡守
廣元

大夫属重能因幡守廣元
就て主君頼朝の伝言文を宮中へ捧ぐ
其文いまへふたえうり

梓治部丞有友

江の三廣光
江の藏人廣通

湯とう嶋左之進
甚勝

西美人
江間小四郎義時

三四美人
海野太郎幸氏
結城七郎朝光

右大将頼朝卿

北條左近将時政

範頼の公達
白鳩丸

蒲殿が
濱ノ宿の館
兵火ゝ焼立る

範頼の御曹
幡太方
此武士の名と
此画の話解い
弟三編ふ
説ぐせり

嘉永五壬子春新鐫目録

大晦日曙草紙 十七編 京山作 十八編 國政画

新敷田舎物語 六編 七編 一九作 國輝画

一名八犬傳 犬の草紙 十八編 仙果錄 五編迄豊國画

古今草紙合 七編 八編 仙果作 國輝画

御贄美少年始 六編 七編 一九録 國輝画

連理翹山雞奇縁 初編 二編 西馬補 國政画

俠客傳仙摸略説 六編 七編 八編 西馬譯 國輝画

富士額天人於七 二冊 仙果作 芳虎画

嶋巡浪間朝日祭 三編 四編 種員譯 國輝画

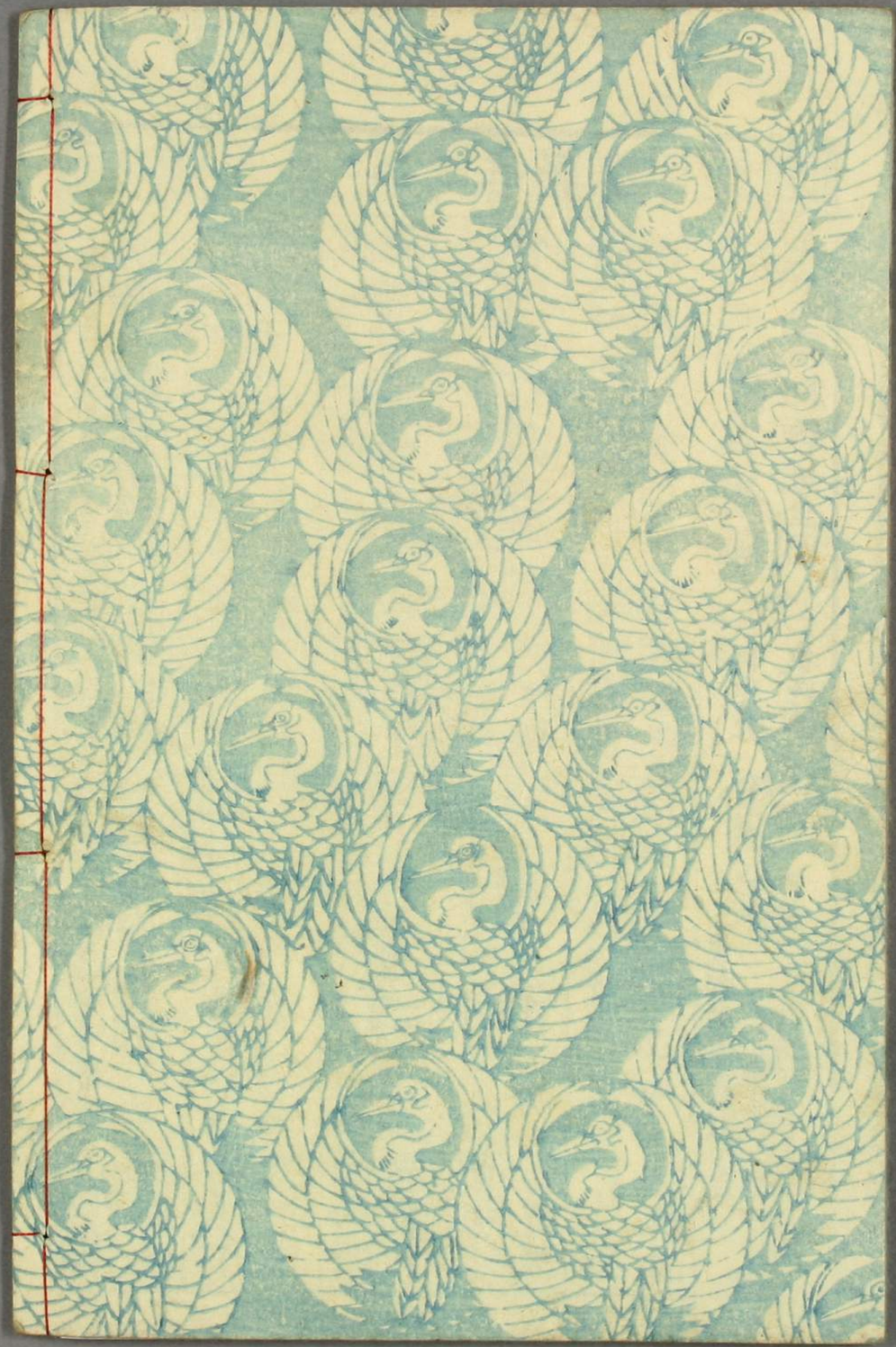
春柳錦花四 三編 四編 一九録 國輝画

府郷御江戸繪圖 大奉書 六枚つゞき

大日本國郡輿地全圖 全 六枚ばなれ

地本錦繪

東都南傳馬町二丁目 蔦屋吉藏



鴻廻浪間朝日奈

第二編

種貞譯
國輝画

紅英堂
壽梓

へ13
3415
3-4